

着物と私(4)

「日本の良さを感じるとき」

山本 愛弓



着物は七五三や成人式、結婚式といった人生の節々でよく着られていますね。みなさんは他にどんな場面で着物を着ますか。

代々このコーナーでお話してくださった先輩方のように着物の専門的知識があるわけではないのですが、今回は他の方とは少し変わった私の着物との関わりをご紹介しますと思います。

私の場合は弓道で着物と接点があることが特徴です。弓道との出会いは中学生時代に読んだ本でした。弓道の凛とした姿がとても印象的で自分もやってみたいと思ったのです。しかし地元には弓道場がなく、高校でも弓道部があるところはおくわすかでしたが、偶然にも自分が進学した高校に弓道部があったので迷わず入部しました。そして今、大学でも部活動として続けています。私の名前が名前なので、様々な場面で「両親が弓をやっているのか」とよく聞かれますが予想に反して全く関係はなく、私自身も名前との共通点を意識したのが入部してからという程なので、よほど強い運命だったのでしょうか(笑)。

普段の練習では道着と袴という、いたってシンプルな和装です。けっして華やかな格好ではありませんが、着物が人生の行事で着られるように気持ちが引き締まって、自ずと背筋も伸びてきます。弓道は精神状態が射にも顕著に表れるため、28m先の的へ真っ直ぐ届かせるには気持ちを落ち着けてしっかり狙う必要があるのです。また、袴は着物と同じく帯を締めますが、キュロットやスカートが長くなったようなものなので動きやすいのが特徴です。慣れてくると私服よりも袴の方が楽になってきます。

そして何といっても弓道をやっている人の特典だと思うのが、1月に京都の三十三間堂で行われ



る「通し矢」に出場できることです。私たちは「成人射会」とも呼んでいます。その名の通り成人を迎える弓道人が着物や紋付袴などで着飾って60m先の的に矢を放つのです。毎年お正月の風物詩としてテレビや新聞で取り上げられるのでご存知の方が多いと思います。特に女性は色とりどりの振り袖や髪飾りを付けるため、とても華やかで弓の美しさに更に磨きがかかるのではないのでしょうか。私は地元の成人式の着物姿と通し矢の袴姿で2回も成人式を経験できたことを本当に嬉しく思っています。他の人とは違った特別な思い出となり、弓道においても少しは成長できたような感じがしました。

着物の知識が全くない私でも着物や日本文化の魅力を知ることができたように、その魅力を感じられる機会は思った以上に私たちの周りにあるのだと思います。みなさんも改めて着物を着てみませんか。成人式とは一味違った気持ちに会えるのではないのでしょうか。

やまもと あゆみ(英米語学科4年次生)